

歿

二松學舎松会 岩手県支部便り
発行日 二〇二三年 二月十九日
編集者 宮本義孝 第一〇六号

畑功先輩を送る

畑功先輩(二松学舎大学、文学部26回、昭和三二年度卒)の亡くなられたことを、新聞、二月七日付「おくやみ」欄で知りました。享年九三歳でした。

畑先輩のご逝去につきましては、松会会員一同にかわって心よりお悔み申し上げます。

松会、岩手県支部が、牟岐詰雄先輩のお声掛けで昭和五〇年に発足して以来、畑さんは熱心に会の活動に参加下さっておられました。そして、牟岐詰雄、佐藤美次、中野富彌先輩が引退した後、支部を引き継ぎ、支部長になられました。畑さんは、支部の活動をこれまで以上に盛んにしたいという願いは強かったのですが、八〇歳に近いうち年齢で体力的に無理もきかず、大分苦勞がさっていたようです。

とってみれば、まったく関係ないわけです。

又、葬儀についても、新型コロナウイルス流行以来、考え方や遣り方も多様になってきています。それぞれにお考えのあることと思ひ、それ以上は催促しませんでした。

ただ長く分らないということは、勝手にそこに想像が入ります。毎年、近況を「何とか元気にしています」と報告していた畑さんは、案外、『法句経』九一の「心ざとくくらは、家におぼるるはく立ち去りゆく。水鳥の池を捨て去ることく、此の家を捨て彼の家を捨つ。心淨得念無所會樂 已度癡瀦 如雁棄池」(友松圓諦訳)と云う詩句どおり、あっさりとして此岸を捨て彼岸に渡ったのではないかと思われまします。

大学卒業後、畑さんの進むべき方向を示して下さった石川梅次郎、牟岐詰雄先生、支部活動で協力してもらった小山尊史、佐々木英司、瀬川孝三君。大学時代のクラスメイトで卒業後の親友も厚かった松田存彦教授、更に、生き方の、あまり上手でなかった畑さんを支えつけた函様は、すでに亡くなっておられます。

「此の頃は日に三度の食事も面倒になってきました」(平成23年頃)という畑さんは、あらうで盛大な歓迎会を受け、楽しく「わい、わい」やっていたのかもしれません。

そして結果的には、平成十七年度の総会時に、支部長を私に引き渡すことになりました。

それでも畑さんは、松会会の東北地区代表の幹事をなさっておりましたし、支部についても遣り残した仕事もあつたよう、退任後も顧問と云う立場で意見を述べたり、アドバイスをしたりしておられました。

そういうする内、畑さんは、嘗ての学友や支部活動を一緒にした仲間の死去、次いで長年連れ添った奥様を亡くすことになりました。特に、函様のことは大変堪えたようで、平成二四年度総会時の懇親会を途中で退席した後は、一切、支部活動にはお顔をみせなかりました。自らすすんで、終った人を演じているようでした。

私の方も、気持ちを察して、そつとしてやった方が良かったらうと思ひ、会報を送る以外あまり連絡もとらなかつたわけですが、それで、最近の畑さんの様子を、もう少し詳しく会員の皆さんに報告できたらと思ひ、訃報に接して直ぐ、お悔みの手紙と亡くなられた日時、場所、それに葬儀の様子やお守りなど、親族のどなたかにお教えいただきたいと、お願い致しました。けれど、回答の返信は得られませんでしたが、親族の方々に畑さんや我々は松会会に繋がっています、が、親族の方々に

いろいろお世話になりました。

慎しんで畑さんのご冥福をお祈り申し上げます。 合掌

左は、写りがあまり良くはありませんが、平成十七年度の総会(於、北上、フラザホテル)時に撮った写真です。

前列中央、佐藤美次先輩、左は小山尊史さん、右が畑功さん。後列左は瀬川孝三君、右が私宮本です。

この時、集まった五人の内、私を除く四人は、すでに鬼籍に入られました。過ぎゆく時の流れは瞬く間、人の一生は、思いの外、短いものです。

